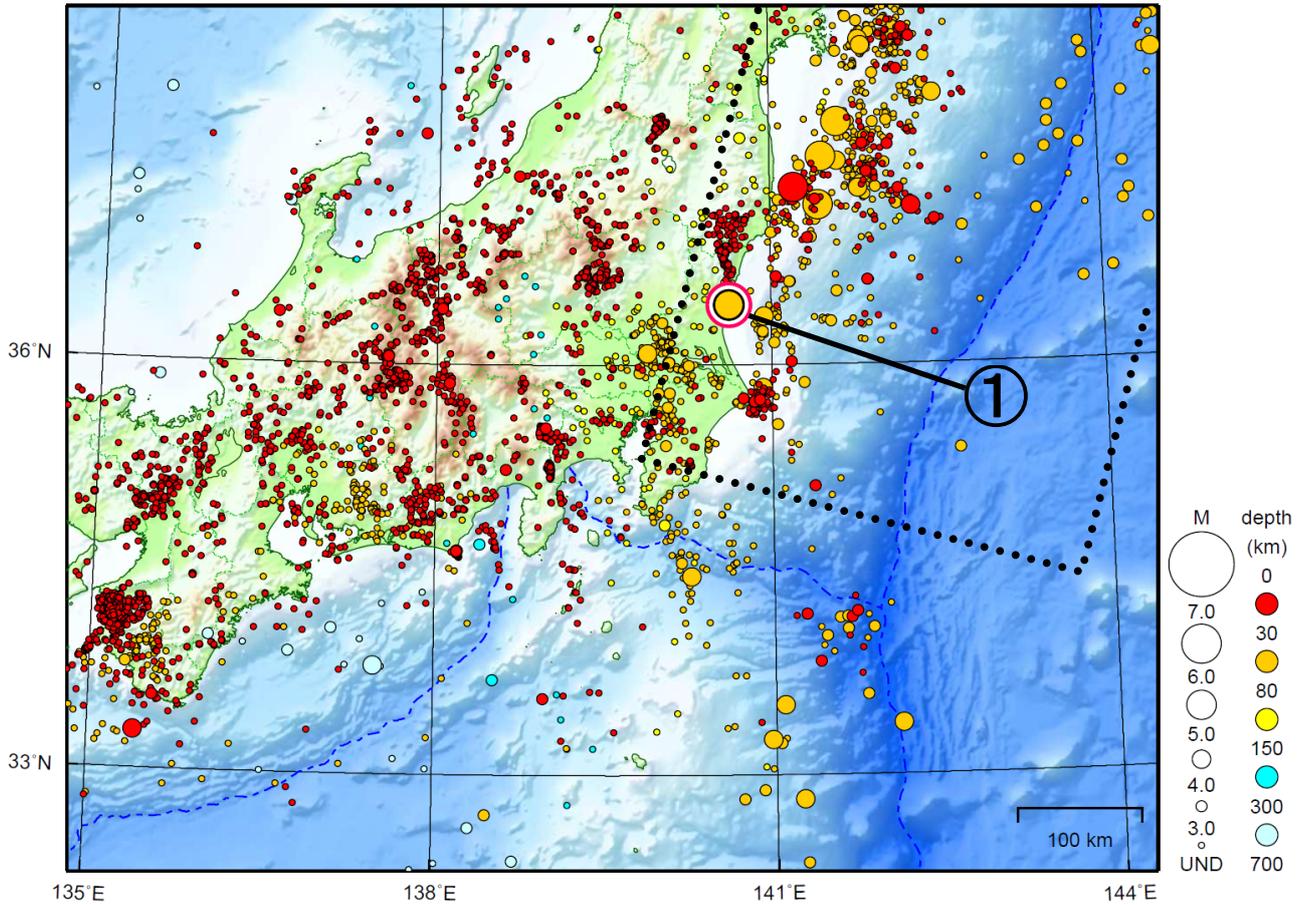


関東・中部地方

2015/08/01 00:00 ~ 2015/08/31 24:00

N=4633



※ 点線は「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の余震域を表す

地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

① 8月6日に茨城県沖で M5.2 の地震（最大震度 4）が発生した。

情報発表に用いた震央地名は[茨城県北部]である。

（上記範囲外）

・ 8月17日に硫黄島近海で M6.1 の地震（震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した。

（上記期間外）

・ 9月2日に鳥島近海で M6.1 の地震（震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した
（上記範囲外）。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

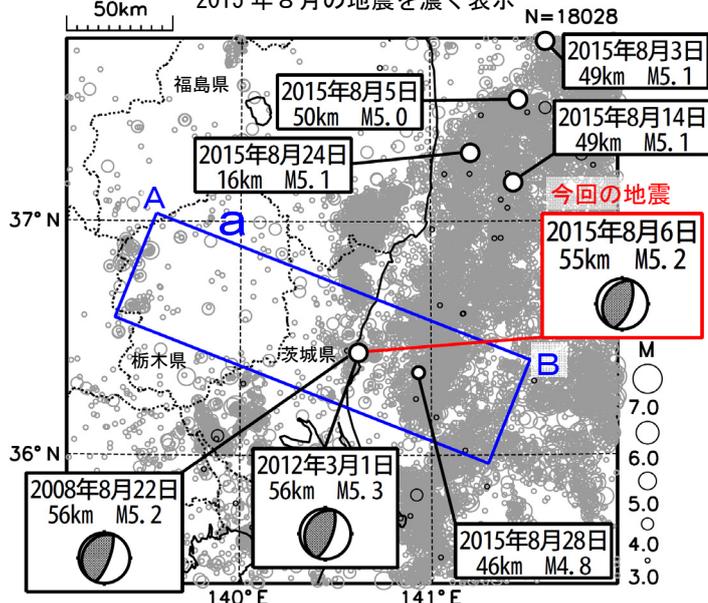
8月6日 茨城県沖の地震

情報発表に用いた震央地名は「茨城県北部」である。

震央分布図

(1997年10月1日～2015年8月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 3.0$)

2015年8月の地震を濃く表示

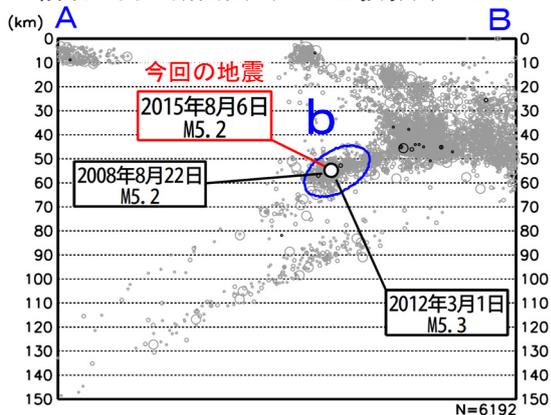


2015年8月6日18時22分に茨城県沖の深さ55kmでM5.2の地震(最大震度4)が発生した。この地震は発震機構が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

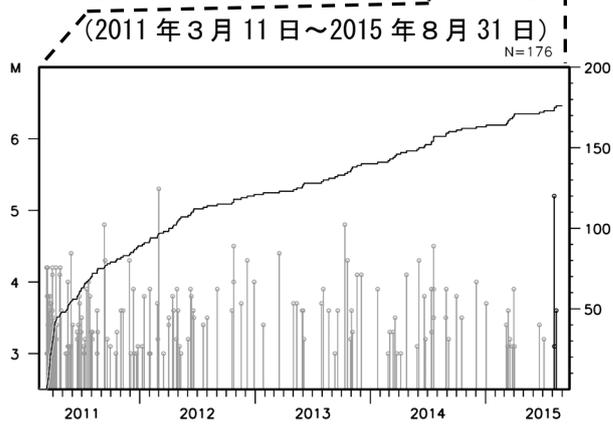
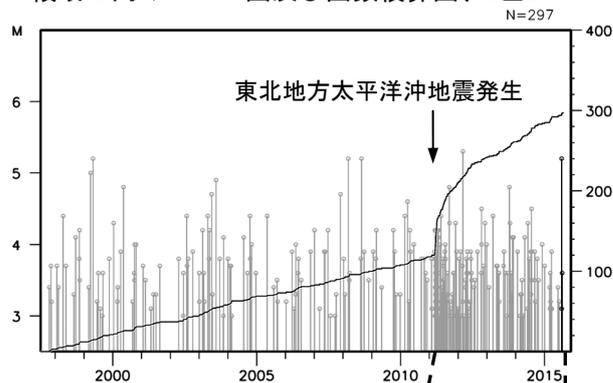
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)は、M5程度の地震が時々発生している。「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の発生以降、活動がより活発になっており、2012年3月1日にはM5.3の地震(最大震度5弱)が発生している。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域c)では、M5.0以上の地震が度々発生しており、このうち、1930年6月1日に発生したM6.5の地震(最大震度5)では、がけ崩れ、煙突倒壊などの被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

領域 a 内の断面図 (A-B 投影)、 $M \geq 2.5$

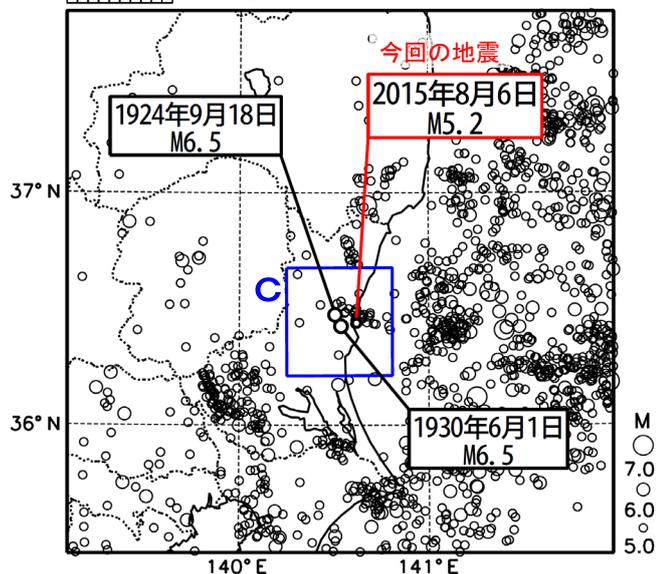


領域 b 内の M-T 図及び回数積算図、 $M \geq 3.0$

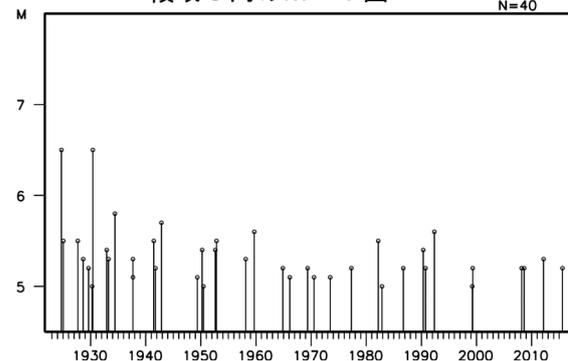


震央分布図

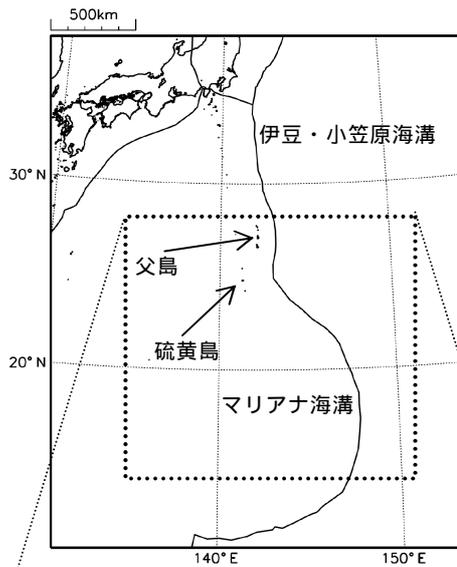
(1923年1月1日～2015年8月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)



領域 c 内の M-T 図



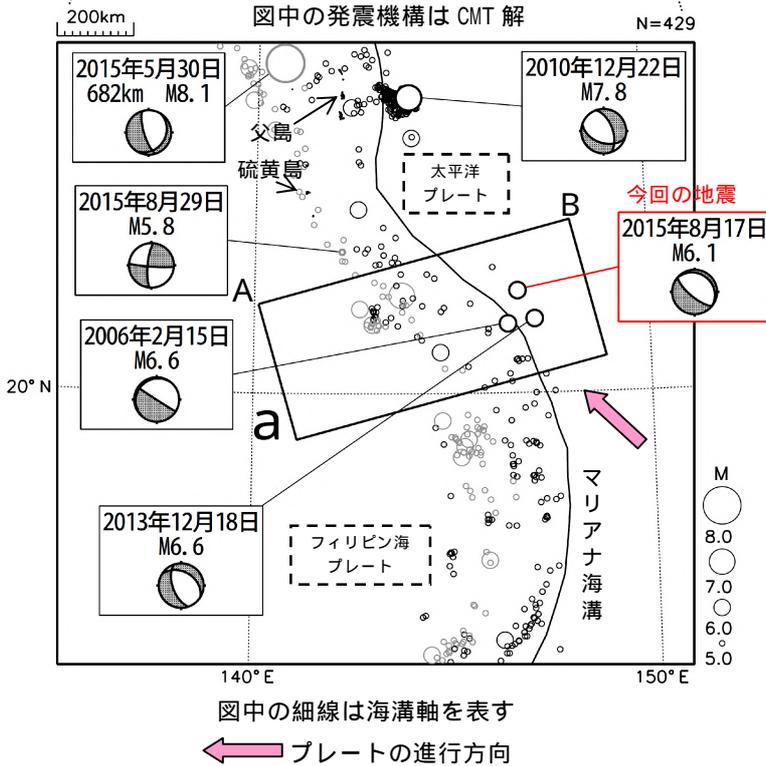
8月17日 硫黄島近海の地震



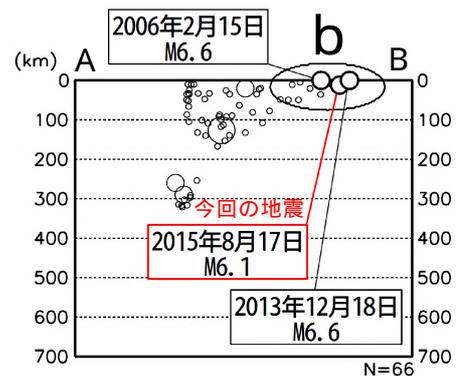
2015年8月17日23時42分に硫黄島近海でM6.1の地震（震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型で、太平洋プレート内部で発生した。

2000年以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域b内）では、M6.0以上の地震は3回目であった。2006年2月15日と2013年12月18日にM6.6の地震（ともに震度1以上を観測した地点はなし）が発生した。

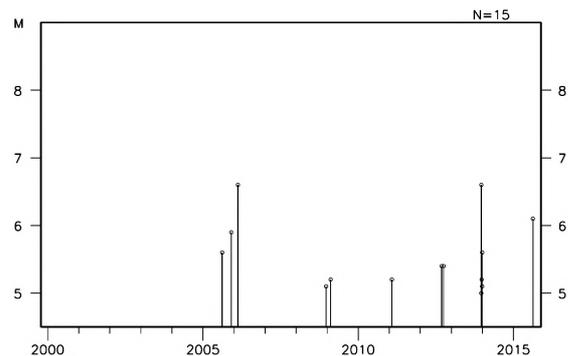
震央分布図
 (2000年1月1日～2015年8月31日、
 深さ0～700km、M 5.0)
 深さ100kmより浅い地震を濃く表示
 図中の発震機構はCMT解



領域a内の断面図（A - B投影）



領域b内のM - T図



震央分布図中の吹き出しは以下の地震に付けた。

- ・今回の地震
- ・領域b内でM6.5以上の地震
- ・震央分布図内でM8.0以上の地震
- ・震央分布図内で深さが100kmより浅い地震でM7.5以上の地震

本資料中、震央分布図に発震機構（CMT解）を示した地震の震源要素とCMT解は気象庁による。その他の地震の震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2015年9月2日現在）。プレート境界の位置はBird（2003）*より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.